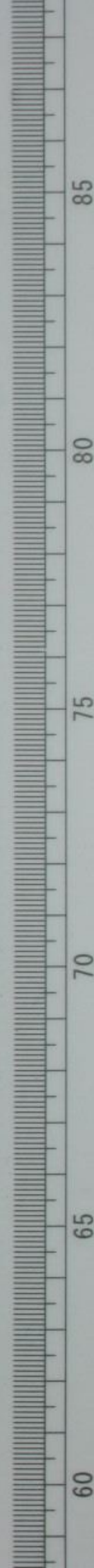
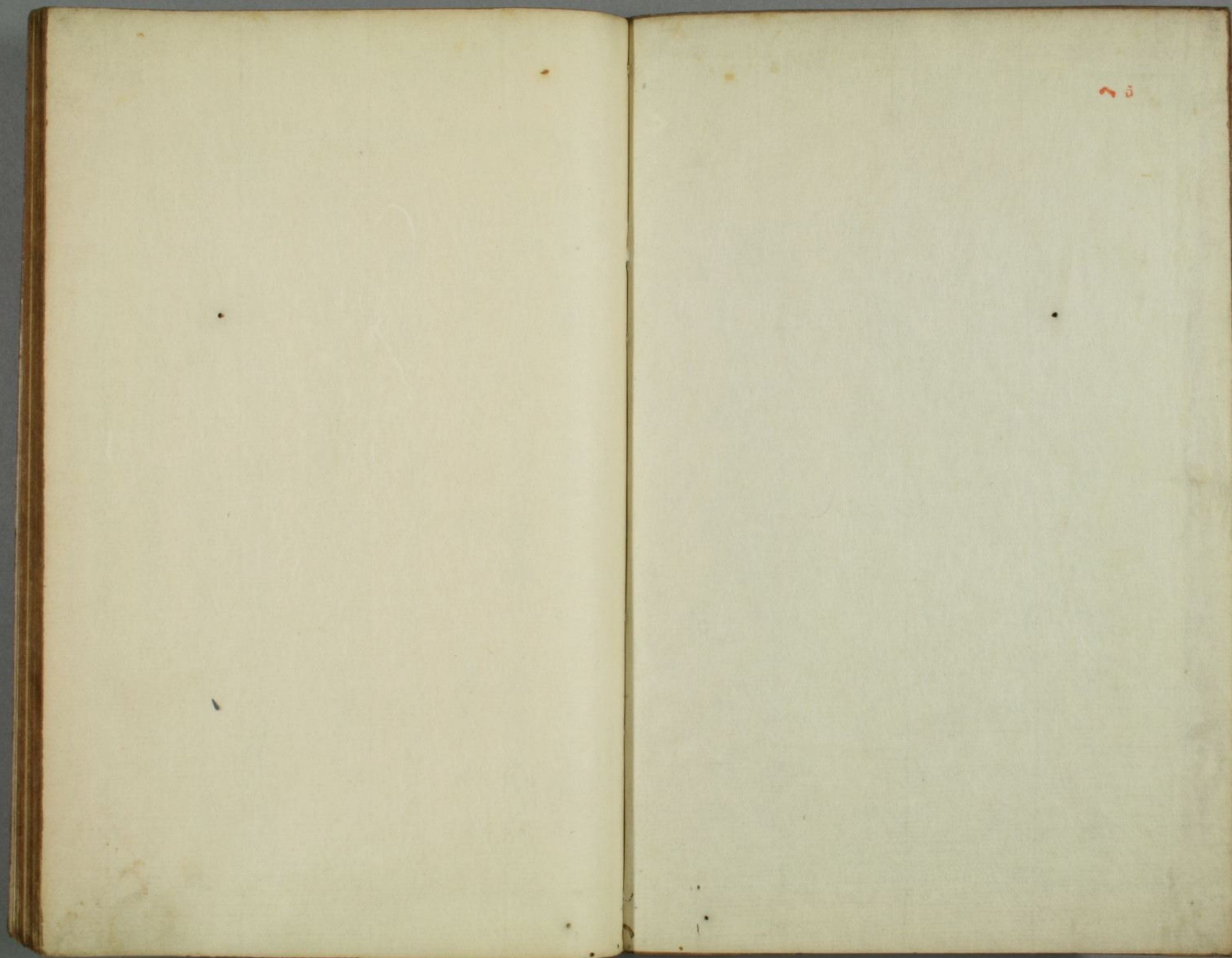


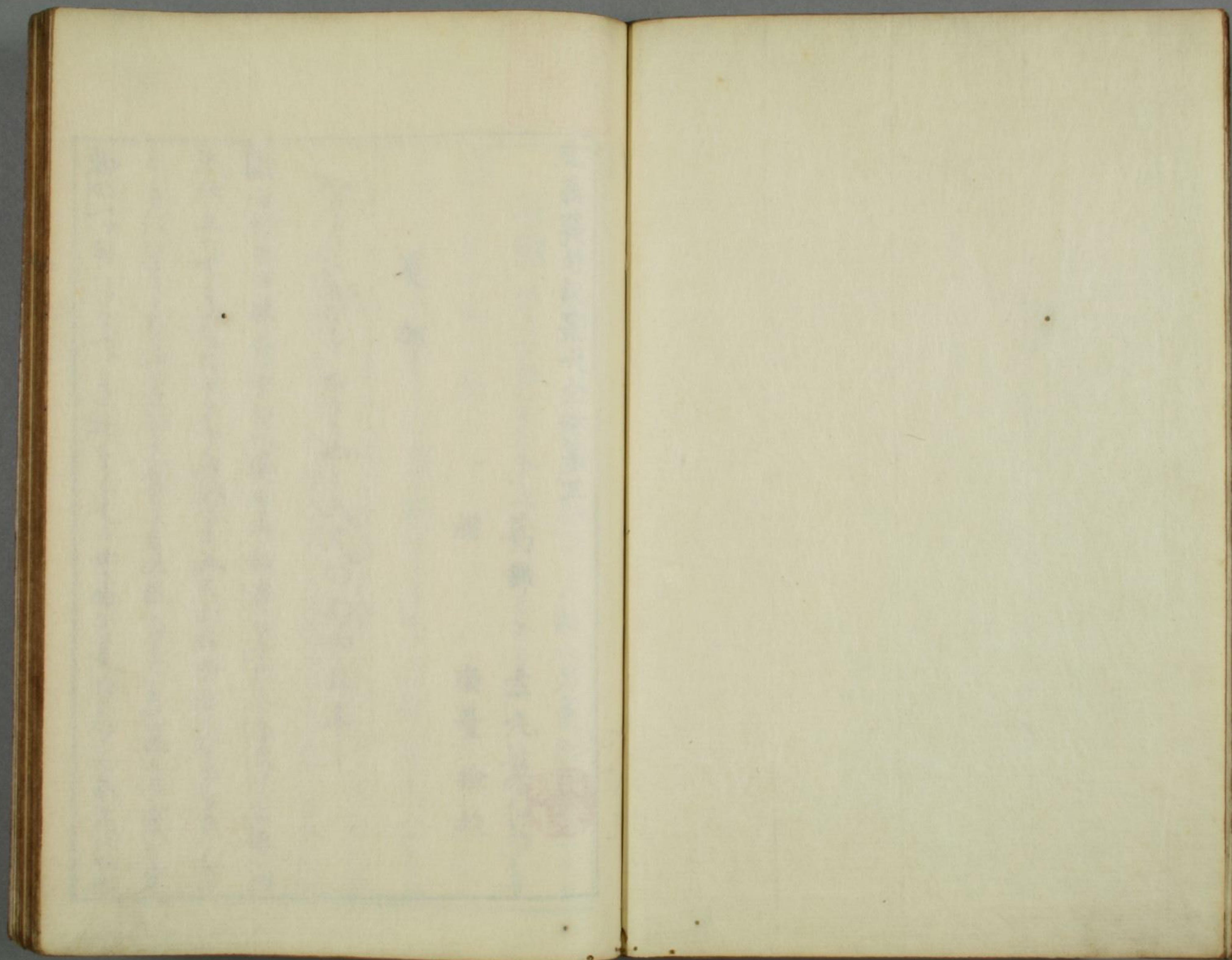


說部大全
夏之部

新
1061
3








蕉翁發句說龍大全卷第三



萬飾

素丸

著述



司

南臺檢校

夏部

かゝるまゝを
ちやみ尺の
あや草

云紹巴法眼秀吉公（連平）の秘事を云ふと云ふ一よ癸句
張仕立のすゝくとして毎らう五尺の何やけにをぞとくさ
うゑにひくく仕立がうやうゑの説ありむ島月雪ハ家
物の一つなりとて下も物なりといふ念の更なりとて五尺の何や

○卷第三

ぬの名哲乃詞をよみて郭公よあうらんはるはるを
亦名人のち拙をがくきけよあやめはふ易句に人の
新~~~~~妙術也可考解云がくきけやうきめあや
めあやめをけのぬきもすきけ詠めよけがえやめ
いひきめ詠め~~~~~拙をがくき人の二言はみ月の
もあ~~~~~余情を雨後の曉とる~~~~~乃周法明
の言いぬえの~~~~~に多を拙とらんやに詠~~~~~といふる
紫此句で出さる

説林紹巴の説を引て五尺の漢とせ~~~~~其根の許六が重
園集の餘篇に孟遠の記せ~~~~~桃の杖菊阿口傳と云ふ

のふあ~~~~~あかもたが~~~~~是を以て已~~~~~のら
く~~~~~と入也をな~~~~~紹巴より以て~~~~~この人
い~~~~~紹巴の後の~~~~~許六も~~~~~初~~~~~あり
~~~~~又名哲の古き詞を裁入~~~~~何~~~~~拙  
よ~~~~~やせん~~~~~妙術とい~~~~~畢竟此句の  
風情~~~~~解をぬ~~~~~かく~~~~~重~~~~~  
解の~~~~~上の句は吟~~~~~の~~~~~下の句は  
~~~~~幾~~~~~此~~~~~い~~~~~  
らぬ~~~~~あやめ~~~~~序~~~~~
あ~~~~~無~~~~~

○卷第三

しる。翁乃風骨。凡思ふたゞひる。ある。今くは。此
れ多と。模寫し。些との。妙を。な。無き。古
人の。裁入。り。何ぞ。歟。情。や。人
る。人。の。事。林。乃。海。也。

や。く。は。む。月。の。花。さ。り

△花盛りにて。有翁の。み。み。て。再。訂考を
言。海身。の。二。句。ち。り。み。り。

袋 云正月の梅の夢也。と。是。時。多。を。て。今。を。ま。さ。り
て。責。て。汝。何。處。に。夢。に。あり。て。神。を。い。ひ。け。る。や。乃
始。り。啼。へ。さ。る。事。は。正。月。の。梅。の。心。盛。ち。る。ふ。り。て。延。し
ち。海。や。こ。と。う。あ。き。く。句。也。**解** 云袖日記。と。い。は。句。諸。集。よ

を。整。り。と。あ。り。と。人。の。未。練。り。師。の。名。を。あ。り。せ
む。夢。り。の。衣。更。着。以。此。氣。を。あ。り。て。む。月。の。心。盛。ち。る。山。家。集
み。時。も。う。れ。梅。よ。ち。り。ふ。り。梅。く。さ。り。き。れ。夢。り。の。心
の。く。さ。り。林。此。句。で。あ。り。け

説 **袋** 注。甚。に。邪。妄。夢。理。無。法。ある。の。信。用。を。金。か。ら。ん。
杜。宇。で。責。は。き。い。ん。何。と。て。正。月。の。夢。や。又。梅。の。大
凡。二。月。の。夢。と。い。ふ。り。て。冬。暖。の。遲。速。も。い。ふ。る。れ。
押。出。し。て。初。音。も。二。月。よ。う。め。る。二。月。の。名。を。梅
え。月。も。莫。傳。梅。津。月。も。り。き。き。ん。何。ぞ。正。月
の。梅。乃。夢。り。と。い。は。○さ。け。き。と。い。は。夢。さ。あ。り。の

○卷第三

ふなり。夢うゝいふさうに二月解の初めより。く
かゝりて。いなり。きなり。むさけりの方。餘情あり。梅
くさり。夢を夢も。海を海も。いよく。いよく。い
く。梅のまに。あり。なり。早く。月日。乃。つり。親あ
目あり。○爰に深川の古杉風。家路。と。る。翁のま
一軸あり。貞享丁卯秋。と。名。無。傍。正。筆。あり。四。本。を。此
句。三十一。章。を。用。く。び。や。く。き。ん。の。句。梅。さ。り。と。き
し。誠。く。正。證。と。る。吏。登。も。以。軸。と。る。ゆ。ゑ。め。
神。日。記。よ。そ。ろ。と。せ。い。な。乃。事。く。予。今。又。依。不。跡。正。證。改
也。○白兔園宗瑞云。世より子規。臆。月。か。く。三。文。に

を。と。き。い。そ。こ。に。語。を。い。ま。し。を。隔。の。め。則。切。字。也。か
ぞ。夢。へ。か。り。夢。も。も。と。も。時。多。と。い。ふ。ま。れ。に。そ。切。る
あ。ず。や。い。河。の。下。お。ろ。る。め。切。き。と。い。ふ。き。ん。の。月
い。と。も。句。の。ま。れ。と。知。く。さ。き。に。無。え。ま。く。是。ハ。影。略。互。見
の。句。法。也。爰。く。予。が。芭。蕉。句。法。よ。記。す。○此。句。一。句
乃。う。ろ。る。跡。に。翁。と。る。も。そ。何。代。の。古。風。と。い。は。れ。の
句。の。ま。れ。と。知。く。さ。き。に。後。の。人。解。せん。よ。その。か。り。あり。て
此。類。の。句。ハ。深。き。く。羅。か。う。と。い。ふ。翁。の。徳。を。減。さ。る。の。つ。ま。か
から。い。め。い。う。ふ。と。や。予。も。解。う。け。と。す。よ。注。有。解。也。
後。人。の。迷。ひ。を。教。く。よ。う。と。い。ふ。愚。説。を。解。す。○

○卷第三

きしつてし **袋林** 此句を出るも

説 **詳** 何れなり。按じらん。此句ハ元禄二年五月三日四
日此の吟也。武隈乃松張事。初車のころあま古めうけき
い。大槩を記せば「あいつと何かる屋きふや」○
板の寺通物のみらの國うりのりて「武くはの松ハ
二本で都人いうや」と何りんきと書つんか。後言やよ
うめると自讃しき。後祇禪林寺大僧正深覺武く
はの松ハうと本をみきこいも。うくよめるあだめぬ
かふへ 右難和抄より
うり下書き あまふ隈の武隈の也○奥義
按云武隈の松ハいつのせうりりける物ともきく。人ハ

うきしつてし 右難和抄より
うり下書き 此句を出るも
とて書いてる也。け松ハ昔よりあるに何れも後京
元良そとける人の任ハ館乃あま始て植ふる松也。陸奥
の館ハ武隈と云所くありけ人二夜うけ國の任ハ成ては
乃ふいよあま前植ふるも。勢やうくむ武隈の松を
やういあひるつる。武隈のはあいの松ともあり重
之集武くはのはあつたふる松くも我うと記しり
何れもや。いきく武隈乃はかいつて山のうけ。勢や
ある也。云顯仲云後京元良うきくも松跡火うき
ん。後満正う任ハ植ふる後又うけ道真う任ハ植ふる後

○卷第三

あしと地なり。此句の解ふに當る。○叔父句は旅
人の許六よりぞも。それをしる。あかづきに。いふと
もきこえど。思ふ。唯うちまうせて。世の中乃旅人の
也。との解。許六は。彦根の城主お仕へて。家名重く。富貴
と云ひ。博學廣才也。此度本府後をうけて。舊里へ
帰る旅なり。餓ふもの。意は。都て世の旅人ぞん
た。多し。お淋後が。旅めし。を。ある。本府は。し
山中不自由。し。する。市。し。推。を。多く。し。し。時
托の。推。張。花。の。う。い。く。有。無。か。い。云。う。る。極。め。し。を。何
は。か。し。り。り。其。益。乃。奢。ふ。金。銀。を。費。し。學。力。敏。也。よ

か。る。る。る。る。都。て。の。旅。人。の。心。を。汲。り。し。推。の。心。は。供
し。き。さ。は。る。る。の。う。い。な。い。し。し。旅。中。に。机。流。も。面。白。か。る
る。し。し。し。し。し。し。垂。戒。を。含。め。る。也。し。州。へ。い。按。さ
る。支。考。へ。五。器。一。具。の。め。き。師。乃。の。才。子。我。憐。む。し。つ。き
小。甲。乙。那。し。旅。人。を。許。六。と。し。て。さ。く。い。り。し。き。也。か
上。乃。旅。人。の。事。を。先。ッ。奉。て。さ。し。お。も。と。初。め。る。る。る。か
く。此。を。く。あ。る。る。る。る。推。の。も。と。し。し。分。明。あ。る
也。し。推。の。む。も。は。人。の。風。情。に。い。り。し。其。意。閑。え。る。一
句。も。ま。り。入。る。か。の。字。句。と。成。り。か。し。推。は。り。し。し
沸。き。し。め。し。も。も。亦。ん。る。極。の。り。も。さ。し。し。許。六

是非小所不及也。又け二句を一句とす。たゞいふとて
後の人。出傳へしや。知。解。う。く。ん。○げ人の心を
ひるべからずと。詞を疎かりし。示誠の心を推し
うへきる也。うも人の旅も夢人なり。教訓なり
今日の誠情。今眼よりさる。ざりて。家より。かこ。け
ふ。く。ど。え。く。けりぬ。○又推の花と。下に。さ。さ。し。で。花
るふ。許六をさして。推のむと。せり。く。も。也。上よ。あ。る。
旅人といふ。い。て。の。やつ。き。た。人の。旅人。と。い。ふ。心。小。て
艱難をさる。旅人の。心。も。い。せ。て。離。勝。よ。風。雅。ある。ゆ。
あ。い。ち。せ。よ。推の。む。と。許六を。い。て。さ。る。也。是。六

義小比良の跡にて詩歌連歌をも傳へてゐる事也。只椎の
花も旅人の心も似よといひ一句を婦つうみしてさへぞ。翁の
心骨といふ點と趣味雪の遠い所屬し。椎のさへゆふ
をいふ。慥ある證文なり。爰を初葉に記して人爲
み。此詞をば。免。殊に。全文始終を考へ。翁の私を
き。心中を。初。ひ。より。考へて。後の人。異注邪海に。
海より。事。なる。こと。句。選ふ。此二句。乃。も。善。雀。歌。塞。を
乃。も。や。あり。と。ひ。杜。撰。なる。もの。あり。此外。誤。多し。

木因亭画讚

（説）白選より改め訂正

竹は竹の如くある日の義と望

解云五雜俎曰栽竹無時雨過便移須留宿土記取南枝此妙訣也俗説五月十三日竹醉日と俳諧の俗説とも相違依て夏より秋居家必用五月十八日栽竹及十三日為竹本命日百無一死頗試實效竹植ふは義多し掛合ふは命を風流や（袋林）此句は此より

（説）五雜俎の説は栽竹の法あり竹酔日の事小なりと植ふは好し（袋林）此句は此より無益也又俗説といふ

文章の如くふあり唐土の俗候ハ詩の如く文章の如くふあり故事より日本に俗説あり又居家必用あり近來の書あり出所も訂正も又記取南枝の記字疑ふらる誤なり○仇池墨記曰種竹須用辰日栽竹用臘月五月十三日古人謂之竹酔日又謂之竹迷日栽竹多盛茂或陰雨則鞭行明年竿莖交出是證説也非俗説杜子美詩小東林竹影薄臘月更須栽又山谷詩小竹須辰日斲竿看上番成ともあり又土の古説ハ詩の如くあり又竹本命日ハ迷日の誤なり

らひ。○句選并ふ句解。竹酔日と題書と。是の何れも
屋きふ也。笈日記ふく。大垣あり。画讚二句あり。如行
亭菊 渡あうしうきき 木因亭竹 路くとも竹うき 是は
ふ月の節といふあやうしと路らうと云ふ也。世に句の竹を
画讚也。竹酔日二句の語句を題する也。○支考
う古今抄二ありふ。

画圖解

粽 路ふくとも竹うき 新撰
路らうとも竹酔日と表と云

右二章と画圖の解と。祖翁ひう。猿蓑の選場あり。
物語の面影とも一句ハ入集と云き也。とけ粽の句と送

り路らう。遺稿の書法も天にし。多に思へ。竹酔る句も
画圖に形意といふ句とあやと云。孟宗の夢。ふらふり。之ハ
よせく。竹酔日と題といふ。淋く。蓑笠の夢。有声の画
とも云ふ。風流あり。此句翁神秀の此れ句あり。笈日記大
垣の部で。併るる也。

象瀟一見

ささわくのあや。西施が合歌の世

袋

云象瀟のむも合歌の元と源とる句也。西施をいふは云

○卷第三

いかりをば、楊妃も、海棠も、注り沙を入るわたり、かゝる真
出所をば、たゞて、わたり、さう、ゆゑ、一り、うて、何、う、ぬ、
二十八字、詩也、翁、唯、十七、字、に、綴、り、あ、せ、く、さ、う、切、字、
ま、じ、だ、一、也、淡、粧、濃、沫、と、つ、ま、む、ま、で、一、字、も、さ、系、多、
み、さ、ん、ふ、う、と、疎、に、俳、諧、の、家、に、名、を、も、高、名、も、い、ふ、
但、西、子、の、西、施、也、と、詩、格、の、註、め、る、う、り、○、も、で、に、奥、の、細、乃、
の、文、章、め、云、雨、朦、朧、う、て、多、海、の、山、か、る、闇、中、小、莫、作、一、
あ、さ、奇、多、う、と、せ、月、雨、後、の、晴、色、又、粧、め、あ、と、か、め、う、は、文、
右、の、詩、語、を、裁、入、く、う、る、と、ふ、ま、う、と、や、あ、り、ま、じ、と、口、惜、
う、合、轍、の、波、也、あ、ま、さ、う、海、う、し、依、て、季、と、句、て、う、る、莫、人、

の形容、淡粧濃沫を、模寫、さ、次、妙、也、は、あ、う、う、さ、わ、い、此、四、
字、に、模、寫、あ、る、な、う、す、又、物、よ、あ、て、さ、情、を、う、つ、と、凡、意、よ、あ、
ら、ぬ、可、く、是、より、翁、古、人、蚌、湧、の、吟、う、り、と、い、ふ、も、う、れ、小、多、
さ、の、更、め、か、一、○、象、瀉、一、見、山、色、朦、朧、而、亦、奇、淡、粧、濃、沫、と、
い、ふ、ま、じ、と、又、奇、な、う、う、と、う、詞、書、う、う、て、此、句、あ、る、翁、の、
未、跡、越、後、園、沼、垂、町、未、跡、氏、来、家、跡、と、い、ふ、

花、の、う、人、情、と、よ、み、な、い、う、い、さ、き、模、も、い、ま、
蚌、浦、さ、の、ま、り、へ、み、跡、あ、る、淡、粧、と、い、ふ、も、
夕、も、さ、い、と、淡、う、う、さ、わ、い、

夕ふねもさうみ海ひ波の飛

林 云西行象瀉の極は海よりわけてをねりしあまのけり
中浪のともや黄くはくし **解** 云同平をわけて解を

説林 志のうりいあやまり也。西行の平は花のうくく也。句
選より西行極と題す。是もなよこしと流る家とあり。
さぬい。西行極は。法園とある。而あり。海ひりのは。嵯峨ふ
りり。象くく西行極より。さもりねるる也。かゝる。ふ書
いとある。ある也。信用し難し。 **解** 極よす。ひと記も。進
め。記もや。う。海ひとある。記も。 **林** 并 **解** 象瀉

西行極ありと記も。予常に素龍の記せし。古板の要細
を考ふ。象瀉の文段に。云。ひよの岸みみとあり。わ
のうくともあり。極の元本西行法師の記念をのこし江
上り。海陵あり。さうりて。此句か。は。時の句あり。ひよ。何
とて。り。さ。わ。ゆ。ん。象。瀉。の。極。く。諸集を。る。
に。桃。隣。む。つ。も。も。象。瀉。の。初。め。り。り。そ。外。の。集。も。又。そ
通。り。り。性。の。證。と。も。事。り。教。年。は。ひ。ぬ。然。ふ。去。
年。我。内。安。房。の。園。あり。幽。真。僧。放。つ。の。毎。日。き。ひ。て。誠。後
の新瀉へ。越。け。る。時。越。後。あり。翁。の。ふ。跡。り。と。て。送。り。る。
ん。ま。い。ち。の。う。く。と。も。み。海。ひ。り。古。き。極。も。い。ま。し。詳。述

るに、^レ執^ル也。大徳ハ^レ顯^ス也。徳の^レ涉^ルる。徳^ハ何^レに^レ及^ブ。
や。^レ夫^レ一^ニ存^スを^レい^フもの^ニ也。夫^レと^レ去^リ比^レ吟^ハは^レり。

○笈日記岐阜の朝。此句眞享五年夏の吟也。
やうきうき
 ちしほの吟

一葉ふふと云記も。句選子。何々那集かひいふふ。こつと

改定せし。一筆加へて。考ふつものひもと。字かき。

里々。漢海に舟にありて。海に下りて。海に及びて。

より、心あはれ集りて、
 翁在世の時、證とすきう、
 りり

きめても。句意み。害か。このくにやがひの国も。

四 一投うゑて之
イニまよふとあり誤るゝ
さる 柳、のれ

十八



集 云は向ふし女を思ふの句也たゞやゝ奇なる柳陰の女を画一投
 也植てを立すなり也 解 云 芦野のくしくあふ河の芦花の下野



頤有乃之志乃流之柳之竹青之々々之々々は

二海をくぐり、
高き山を越え、
遠くを走り、
とて、
海にたどり着く。

也。因一校植之。予心愛之。立名曰。含露情也。林

説
袋
例の禪ちやぐ。見やふも。悪し。
解
歩みり。是ハ翁ノ

田うきを足取う。体いふふに解をへて建ち引くは足根を

うかりしに爰に證説を舉し一決と。○古今抄貞享式方云翁

の生前は数百章の発句ありし一
言の隈もなつねとて

事なく増え故翁の舊句も附合も一字の奇言怪語なりん

を入るもすやとしかしめ今又不棄のをさうて臧にふ硯乳ある
指を指したるに五七章も何しとわう中にも奥の細るゝ

四一投

物
之
所
由
生
也

柳の一葉ハ奥の次賀川ある人の便に植ゑたるものなり比
の交通より傳へ廟の一葉ハ賀府の小枝より山中に送りし枝の奈店
より傳へ廟より傳へるものなり今も奈店より傳へる廟より傳
へるものなりと云ふはもと西行の言に意をとりて田植の爲も縁に
けふといふ前のなき方より後の引く小枝より離別の詞にちよ

十九

冬もふも冬も秋も解あふさるやいともおうせむや清書
 小かくい定りまじし云云○春にほくく老ふ小まき柳木とふ
 時ハ翁の体いける我解あふさる又まきとふハ早乙女れ
 涼しき風情なも尺さうに波柳臨ま先と只まきよりし
 まきとふさうさうも一回一板と名はせしハ解あふさるまき
 一とまきまきハ何の詞まきハ後此詞れまきとふさう
 てまきもまきとふさうの詞まきとふさうの詞まきとふ
 まきとふ翁とまきのまきとふまきとふまきとふまきとふ
 再びまきとふまきとふまきとふ此まきとふのまきとふまきとふ
 まきとふまきとふまきとふまきとふまきとふまきとふ

し。河。や。津。入。駒。と。ま。え。し。あ。や。知。り。隙。入。駒。あ。ら。は。ま。き。い。河。も。み。な。金。一。春。の。日。も。や。い。ん。し。大。勢。を。り。是。亦。言。語。文。既。摸。羅。含。糊。し。て。訥。の。物。語。の。や。一。初。集。の。語。は。納。得。し。か。き。い。○。此。句。意。只。昔。の。事。と。る。毎。一。光。臨。の。初。は。大。よ。め。ら。び。し。て。入。り。之。翁。の。お。み。あ。は。は。ま。と。い。は。も。や。ま。殊。々。は。種。と。う。う。あ。で。ま。さ。か。一。あ。つ。し。も。う。り。や。ま。て。此。句。ハ。我。の。雲。の。漂。泊。の。力。ハ。馬。乃。ま。ふ。な。ぐ。さ。み。て。り。の。こ。ろ。い。け。く。と。う。く。あ。り。も。あ。く。う。く。と。一。世。を。務。中。小。さ。き。と。さ。だ。し。初。の。ま。ふ。な。づ。て。し。う。も。こ。ろ。一。と。観。あ。へ。ば。あ。り。う。か。め。お。と。な。金。一。宗。祇。の。寄。り。哉。と。い。ふ。同。一。や。う。い。ふ。大。切。の。句。

の。き。り。う。う。金。や。お。く。も。あ。ら。う。と。入。り。し。か。解。ち。な。か。り。

櫻。乃。本。の。こ。ろ。よ。か。さ。る。ぬ。姿。う。れ

〔袋〕云是翁我力の性質の淳朴と世に於て此句と入るは實に正

直なりて世の諂諛小流にぬかむのこころをあらわすも

白。花。一。林。解。の。句。を。ま。じ。り。し。

〔説〕〔袋〕妄荒翁の性淳朴なり。何ぞ自慢の念ありや。河

かへ正直なり。し。う。く。は。是。翁。を。ま。じ。り。ぬ。人。翁。小。罪。を。課。と

ぬ。る。も。の。也。○。句。意。ハ。翁。死。よ。う。と。も。あ。ら。う。と。い。ふ。人。

け。種。い。は。れ。り。あ。ら。う。と。い。ふ。う。て。多。量。を。争。う。と。い。ふ。う。て。

る。蠶飼也。蠶ハ眼前の。今セリ。ふて。夢とセ。蠶ハ。り。と
より。夢。の。蠶飼ハ。夢。の。然。い。とも。春ハ。ふて。稚。く。計。又
や。四月。や。肥。ふ。月。果。を。かく。き。う。も。バ。夏。も。淡。り。て。下。り。ぬ
ふ。み。奇。運。速。と。ふ。り。と。一。無。益。の。争。い。よ。及。む。○千。梅。が。
池。せ。一。隻。鱸。輪。ふ。み。カ。イ。ヤ。ト。云。モ。ノ。蠶。飼。屋。也。万。葉。集。及
六百。番。ノ。哥。合。等。二。哥。アリ。搥。テ。蠶。飼。ス。ル。ア。タ。リ。ニ。ハ。丹。蠶。ヲ
喰。ント。テ。蝦。蟄。多。ク。シ。タ。ヒ。集。ル。ト。ソ。万。葉。ノ。哥。モ。ソ。ノ。事。ヲ。讀
リ。依。テ。翁。奥。記。行。ノ。時。蠶。飼。カ。リ。屋。ヲ。ミ。テ。此。吟。アリ。句。ハ。春
句。也。紀。行。ハ。初。夏。也。未。タ。蠶。飼。ノ。最。中。也。凡。テ。眼。前。ニ。其。事。ヲ
見。テ。ス。ル。句。ニ。ハ。サ。シ。テ。季。ノ。遠。慮。ナ。シ。紀。行。ノ。例。也。○同。書。蠶

蝦蟇也。昔。予。洛。ノ。東。頂。妙。寺。ニ。招。テ。俳。諧。セ。シ。ニ。伊。賀。ノ。俳。士。ヒ
キ。コ。ト。云。句。セ。リ。予。其。席。ノ。文。墨。ニ。在。シ。カ。ハ。尋。之。伊。賀。ニ。テ。ハ
蟄。ヲ。ヒ。キ。コ。ト。申。シ。侍。ル。也。ト。云。國。々。ノ。方。言。不。可。制。則。懷。紙。ニ
載。ス。此。夏。ヲ。江。戸。ニ。テ。或。俳。子。ニ。語。ケ。レ。ハ。下。総。國。ニ。テ。ハ。ゴ。ト。ト。云
ト。云。リ。ケ。テ。ハ。彼。力。鳴。音。也。ト。知。レ。タ。リ。○同。万。葉。朝。霞。カ。ヒ。ヤ。カ。下
ニ。鳴。蛙。忍。ヒ。ツ。ア。リ。ト。告。ン。ゴ。モ。カ。モ。又。万。葉。今。一。義。鹿。火。屋。ト。云。リ
是。秋。田。ノ。鹿。ヲ。守。ル。為。ニ。カ。リ。屋。ヲ。作。リ。火。ヲ。燒。居。ル。所。ヲ。カ。イ。ヤ。ト。云
是。ヲ。六。百。番。哥。合。ニ。題。寄。烟。戀。山。田。モ。ル。カ。イ。ヤ。カ。下。ノ。烟。コ。ソ。コ。カ。レ
モ。ヤ。ラ。又。類。ヒ。成。ケ。レ。願。照。○予。按。此。詠。寂。蓮。也。撰。者。誤。是。秋。田。ノ。カ。イ。屋。ヲ。ヨ。メ。リ。翁
ノ。句。ハ。是。ニ。非。ス。蟄。室。ノ。句。也。ス。ヘ。テ。古。翁。ノ。吟。如。此。深。キ。寄。セ。ア

ル夏多シ只ナミノコトニアフスト思ヒ知ラル也○鮮より
所ノ家下れりたゞいありかた下のもふなりやきん又か
は屋別の物なりき益ありといふも初輩のてあ俳材の助
けり○堀川百首肝要抄貞徳作才下はすらすりよ
つう緒ぬーつけーいやうーい水きまりり貞徳注にわい
やう下れる頭昭の流い夏種をよせたらぬもの上よ屋を修り
て螢で鯛よせりやといつう今も田舎ふ多くまことつう後成に乃
説ハ廉をよせたらぬ馬の尾をぬくさね物をぬきやる回を
きく六百巻けり合ふ来りーみーりゑ葉はあけりし屋の木の
ぬれりーい其ふ不叶はぬーづけの上に屋を修りて火を焼

くの火氣をし奥をよせりやう鯛屋あつーい○今時
冠字考少も廉火屋小決ーい中多いをーいともそれ
平の方うーい免も角も俳諧ハ倍習小致ハは螢飼とる屋
ういやといーいやーいふづのも也予夏の部ふ入ーい紀行
の時候もさへもの也蓋ふたよりずはかみやのうい異説あり
多くありて連歌の家より定めぬはゆ中其實ハ詳あり
也中古今夏よりよみーいおろる屋の事ーいしハ連平は
廉大屋の附句よ別まつるまなれ夕烟をーい身ーい
なりしをもふ事なり翁の句をば夏よりーい然ん紀行に
初夏ありいよく初夏の事ーいしハ附合の時ハ亦白

夢にやうきもあはれ事なり（可成り）事ある長（い）

あらさーや 子降乃 撫ふ 出つらん

解 云々 縁の事といつゝ 孝はーの種といつゝ よし時々の親

孝はーいまで 賣つて 調へる菓子へ 上臈もさこーりて ぬや

枕系紙 おきさーとつゝ ぬや人のりて ぬや 安益のり

説 二夜 回答云は 句意の 麦の 種れり ぬやと ぬやすゝ

ぬやと ぬや 縣人 ぬやと ぬや 是は 昔に 離れぬや ぬや

ぬやと ぬや ぬやと ぬや ぬやと ぬや ぬやと ぬや

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

いへ人の ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと ぬやと

の片破の屑となりて我輩の如く此の如くも情を述ふいさやうの
の如くありける。此句解せん。此の如くの花の詩并連俳句もにりて
も。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
ら。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
のあとのまなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。

霜のしら梅もさげ火桶の火

袋 云古き代を思ひてとまじう世の如く。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。

いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
解 云此句の詩繪もいさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。

説 袋 深入りて。妄説甚し。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
の句もいさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。
いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。いさやうなきぬり。

増補

ゆふへふもあきつゝ瓜の花

〔訓〕 菊阿口傳云、西行の歌に、心性はさうとてとて、額あて
人（よ）やあはれる雲をわたりて舞ふさうなゆめはつとて、
あはれうはれ、此等とてその吟也とて、夕顔も、鈴鹿もつとて、
と、愛態しつゝの作也。

夏の月清油よりいでゝ赤坂の

同上長崎宇麻亭より、此句を吟して、清なる宇麻といふと、すなは
感入ぬ清油と赤坂の方十六丁あり馬次あるのをとりて、
さうとて宇麻田菰の為人とて、ゆめ感入るゝふとて、此
の句作りあはれぬは、清油とて、赤坂近き夏月
とて、さういふ感じのまゝ、中を句作り終ふといふは、是れ
とて予うゑ文あり、あはれも赤坂近き夏月といふ句作り終ひ
夏の月復少あはれと、拙かゝりて上理屈のやういふも、あはれ
乃理屈とて、事なりといふ。

さういふ素よりあはれ、あはれ、あはれ、あはれ

○卷第三

在翁發句說叢大全卷第三終

